



2026年9月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2026年4月28日

上場会社名 ホウライ株式会社 上場取引所 東
 コード番号 9679 URL <https://www.horai-kk.co.jp>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 小野 直樹
 問合せ先責任者 (役職名) 財務企画部長 (氏名) 田鹿 良 TEL 03-6810-8115
 半期報告書提出予定日 2026年5月1日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無：無
 決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2026年9月期第2四半期（中間期）の業績（2025年10月1日～2026年3月31日）

(1) 経営成績（累計）

(%表示は、対前年中間期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2026年9月期中間期	3,051	16.0	290	81.5	343	59.7	223	85.6
2025年9月期中間期	2,630	5.6	160	△33.9	215	△34.2	120	△47.0

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2026年9月期中間期	53.37	—
2025年9月期中間期	28.76	—

(注) 当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、1株当たり中間純利益を算定しております。

(2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2026年9月期中間期	19,507	10,002	51.3
2025年9月期	19,706	9,865	50.1

(参考) 自己資本 2026年9月期中間期 10,002百万円 2025年9月期 9,865百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2025年9月期	—	0.00	—	24.00	24.00
2026年9月期	—	0.00	—	—	—
2026年9月期（予想）	—	—	—	24.00	24.00

(注1) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

(注2) 当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。2025年9月期においては、株式分割後の配当の額を記載しております。

3. 2026年9月期の業績予想（2025年10月1日～2026年9月30日）

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	6,200	1.4	630	2.1	730	△0.7	500	0.4	119.38

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年9月期中間期	4,212,000株	2025年9月期	4,212,000株
② 期末自己株式数	2026年9月期中間期	19,852株	2025年9月期	23,925株
③ 期中平均株式数（中間期）	2026年9月期中間期	4,189,597株	2025年9月期中間期	4,188,152株

(注) 当社は、2025年4月1日付で普通株式1株につき3株の割合で株式分割を行っております。前事業年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して、「期末発行済株式数」、「期末自己株式数」、「期中平均株式数」を算定しております。

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況	2
(1) 当中間期の経営成績の概況.....	2
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	5
(3) 中間財務諸表に関する注記事項	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(継続企業の前提に関する注記)	6

1. 経営成績等の概況

(1) 当中間期の経営成績の概況

当中間会計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善や各種政策の効果が期待される中、緩やかな回復が続き、個人消費や設備投資にも持ち直しの動きが見られました。一方で、中東情勢やアメリカの通商政策の動向、物価上昇、金融資本市場の変動等の影響から、不透明な状況が続きました。

このような状況下、当社は各事業がそれぞれの特性に応じて、商品・サービスの付加価値やブランド力を向上させる施策の推進に努めました。

当中間会計期間の経営成績は、営業収益につきましては、全事業で前年同期を上回り、全体では3,051百万円(前年同期比421百万円増)となりました。営業総利益につきましては、保険事業と千本松牧場は前年同期を上回りましたが、不動産事業、ゴルフ事業は前年同期を下回り、全体では667百万円(前年同期比125百万円増)となりました。一般管理費は376百万円(前年同期比4百万円減)と前年同期を下回り、営業利益は290百万円(前年同期比130百万円増)となりました。営業外収益に計上したゴルフ会員権消却益は58百万円(前年同期比8百万円減)と前年同期を下回り、経常利益は343百万円(前年同期比128百万円増)、中間純利益は223百万円(前年同期比103百万円増)となりました。

セグメント別の経営成績は、次のとおりです。

①保険事業

リスク管理の専門家としての強みを活かして、お客様に寄り添ったコンサルティングを推進するとともに、リスク管理パートナーとしての総合提案力の深化や、継続的な成長を実現し得る組織・体制の強化に努めました。

営業収益は、生命保険分野において新たにいただいたご契約が増加し、損害保険分野においても期目を迎えたご契約の更改が順調に進んだことから、前年同期比101百万円増加し631百万円となりました。

営業原価は人件費等の増加を主因に前年同期を上回り、営業総利益は265百万円(前年同期比89百万円増)となりました。

②不動産事業

テナント様・入居者様に「安心安全」かつ「快適」な空間のご提供に努め、賃貸不動産の入居率はほぼ満室状態で安定的に推移しました。

営業収益は、前年同期比5百万円増加し651百万円となり、営業原価は、前期に実施したエネルギー効率が高く環境に優しい空調機器への更新に伴う減価償却負担の増加等により前年同期を上回り、営業総利益は389百万円(前年同期比5百万円減)となりました。

③千本松牧場

観光施設においては、2024年10月にファームショップ(売店)・ファームレストランのリニューアルを実施し、2025年4月にグランドオープンを迎えたことでご来場者数が増加しました。当中間期においても引き続き多くのお客様にご来場いただき、リニューアルに伴う広大な景観などを楽しんでいただいております。地域と連携した各種イベントの開催やSNS等での情報発信に力を入れたことに加え、多くのメディアで話題になったこともあって、前年同期比概ね1.4倍の増収となりました。

牧場外のソフトクリームショップは、2025年11月に埼玉県羽生市のイオンモール羽生に6店舗目をオープンし、既存店を含めてお客様に大変ご好評をいただいております、前年同期比増収となりました。

外販営業は、地元量販店向け売上の減少を主因として、前年同期比若干減収となりました。

酪農は、乳脂率・搾乳量のバランスの取れた運営や、新たに建設した哺乳ハウスの活用により仔牛の販売が順調であったこと等により、前年同期比増収となりました。

この結果、営業収益は全体で1,392百万円(前年同期比294百万円増)となり、営業原価は施設のリニューアルに伴う費用計上等を主因に前年同期を上回り、営業総利益は113百万円(前年同期比78百万円増)となりました。

④ゴルフ事業

ゴルフ場の基盤であるコースコンディションの維持・向上に引き続き取り組み、ご来場者様から高くご評価いただきました。

また2026年2月、ホウライカントリー倶楽部において、お客様に新しいプレースタイルをご提供できる、フェアウェイ乗り入れが可能な一人乗りゴルフカートを導入いたしました。この新カート導入は、各種メディアでもご紹介いただき、「革新的な取組み」として話題を集めております。

これに加えて、ホームページの見やすさ向上、SNSやメール配信の積極的な活用、冬季限定食事付プランご提供等の情報発信に力を入れるとともに、会員様へのサービス充実、大学ゴルフ部の合宿誘致、地元の企業様へのアプローチ等で、より多くの方にご来場いただけるよう取り組みました。

この結果、営業収益は375百万円(前年同期比19百万円増)となり、営業原価は人件費及びコース整備や施設改修に関わる費用の増加を主因に前年同期を上回り、営業総損失は100百万円(前年同期比36百万円悪化)となりました。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2025年9月30日)	当中間会計期間 (2026年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,940,471	1,663,699
売掛金	413,533	402,444
商品及び製品	145,932	141,082
仕掛品	8,667	33,756
原材料及び貯蔵品	58,444	70,911
その他	186,069	160,273
貸倒引当金	△46	△43
流動資産合計	2,753,072	2,472,124
固定資産		
有形固定資産		
建物 (純額)	4,665,785	4,595,934
土地	9,147,406	9,147,406
その他 (純額)	2,034,739	2,159,396
有形固定資産合計	15,847,931	15,902,738
無形固定資産	43,175	58,733
投資その他の資産	1,062,641	1,073,645
固定資産合計	16,953,748	17,035,117
資産合計	19,706,820	19,507,242
負債の部		
流動負債		
買掛金	138,485	132,393
未払法人税等	99,153	107,379
1年内返済予定の長期借入金	120,800	120,800
引当金	160,708	101,309
その他	988,260	866,660
流動負債合計	1,507,408	1,328,543
固定負債		
長期預り保証金	5,175,238	5,045,501
長期借入金	2,858,400	2,798,000
引当金	93,140	28,076
資産除去債務	104,350	104,854
長期未払金	—	76,430
その他	103,253	123,281
固定負債合計	8,334,382	8,176,143
負債合計	9,841,790	9,504,687
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,340,550	4,340,550
資本剰余金	527,052	525,710
利益剰余金	4,607,250	4,730,325
自己株式	△19,817	△16,444
株主資本合計	9,455,035	9,580,142
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	409,994	422,411
評価・換算差額等合計	409,994	422,411
純資産合計	9,865,029	10,002,554
負債純資産合計	19,706,820	19,507,242

(2) 中間損益計算書

(単位: 千円)

	前中間会計期間 (自 2024年10月1日 至 2025年3月31日)	当中間会計期間 (自 2025年10月1日 至 2026年3月31日)
営業収益	2,630,042	3,051,316
営業原価	2,088,565	2,383,923
営業総利益	541,476	667,392
一般管理費	381,381	376,793
営業利益	160,094	290,598
営業外収益		
受取利息	820	1,278
受取配当金	7,156	10,629
会員権消却益	66,925	58,306
その他	9,856	7,568
営業外収益合計	84,758	77,783
営業外費用		
支払利息	16,695	16,998
乳牛除売却損	11,971	6,971
その他	1,147	916
営業外費用合計	29,814	24,886
経常利益	215,038	343,495
特別利益		
固定資産売却益	299	140
特別利益合計	299	140
特別損失		
固定資産除売却損	52,315	14,303
特別損失合計	52,315	14,303
税引前中間純利益	163,023	329,332
法人税、住民税及び事業税	20,951	83,416
法人税等調整額	21,623	22,326
法人税等合計	42,574	105,743
中間純利益	120,448	223,589

(3) 中間財務諸表に関する注記事項

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。